

木を大切に つかうこと

今までこれからも

SDGsが叫ばれるずっと以前から、自然からの贈り物である貴重な木材を使つてもものづくりを行うメーカーとして、日進木工では「持続可能」な資源の活用を常に心がけてきました。製品化する際の材の厚みや幅、無駄のない設計・木を見る目を養い適材適所を見極める力・木材を丸太で仕入れて計画的に使用する・リデュース（廃棄物を少なくする）活動のひとつとして、端材の活用など考え日常的に取り組んでいます。

無駄なく使いきる

日進木工では木を丸太で仕入れて自社製品に合わせた木目・厚みなどを考慮し、飛騨で製材しています。その理由は、良材を得ること、計画的に適材適所に木材を使用し、継続的に無駄なく製品を安定して生産し続けることにあります。しかし木は思っているよりも丸太が丸いわけでも真つすぐなわけでも色が均一なわけでもありません。いろいろな木目や色の濃淡があり、それは木が何十年・何百年と自然環境の中で生き抜いてきた証であり、歳月かけて生み出された表情が天然木独特の深みとなり、人々の心に響くのだと思います。

これまではナチュラル仕上げのテーブル天板をつくる時、どの部分も均質で素直な木目が求められてきました。材色の著しい違いやワイルドで激しい木目は避けてつくられていたのです。しかし、材の濃淡や木目の精粗は木の個性であり、その魅力を伝えるのもデザインの役割です。濃色に塗装する、見えにくい場所に使うしかなかったそれらの材料を効果的にレイアウトして魅力あるテーブルをつくることをコンセプトにザ・グランドテーブルは生まれました。

他にもキバコやネストテーブル・トイシリーズなど日進木工の製品にはこのような材料を使っている魅力的な商品が多数あります。

使い続ける

樹は光合成により二酸化炭素を吸収し酸素を放出します。生きるために酸素も取り込みますが若木では酸素の消費量より二酸化炭素の吸収量のほうが多く、体内に二酸化炭素をためながら育ち、やがて成熟すると二酸化炭素吸収量は少なくなります。成長した樹を伐採し燃やすと二酸化炭素は再び大気中に放出されるので、木は木のままで家具などにかたちに変えて長く使い続けることが大切です。

長くお使いいただくためには、丈夫で使いやすく愛着を持っていただけるものづくりが肝心です。使い手を真摯に思い、「安心安全」を第一に、確かな品質の家具を作り続けること。その上で万一の破損に対応する10年保証の体制も整えています。

木材の枯渇・価格高騰が叫ばれる昨今、木製家具メーカーである我々ができることはなにか。今後どうしていくべきなのか。さらなる研鑽を積んでゆく所存です。